

平成30年度 第2回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 平成30年9月25日（木）10時00分から11時45分まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 9階 特別会議室
- 3 出席者 **【委員】**（50音順・敬称略）
池谷 孝、内川麻衣子、遠藤知里、大橋正行、片岡佳美、小林祐太、
設楽和宏、杉山君子、鳴海恵理子、仁科 斉、村越 真、村田真一、
山之上誠
- 【事務局】**
（スポーツ振興課）
稲葉参与兼スポーツ振興課長、戸田課長補佐兼施設第1係長、
池田主幹兼スポーツ振興係長、三矢施設第2係長、野末主任主事、
室井主任主事、村松主任主事
（スポーツ交流課）
望月スポーツ交流課長、長澤参事兼課長補佐（スポーツツーリズム推進
係長事務取扱）、山野井ホームタウン推進係長、前澤参事兼高校総体推
進室長
- 4 欠席者 佐藤栄作、望月勇志
- 5 傍聴者 1名
- 6 議 題 （1）スポーツに関する市民意識調査結果（速報値）について
（2）静岡市スポーツ推進計画中間見直しの構成（案）について
（3）主な取り組み事業について（ワークショップ）

7 会議概要

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

<開会>

稲葉参与兼スポーツ振興課長

<挨拶>

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

- ・会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）

村越会長

- ・会議の公開

事前の傍聴希望者：1名 傍聴を認める。<異議なし>

当日の会議録は、市のホームページに掲載、情報公開する。<異議なし>

- ・会議録署名人の選出 設楽委員<承諾・異議なし>
- ・配布資料の確認

議事（１）スポーツに関する市民意識調査結果（速報値）について【資料１、２】

室井主任主事

<16歳以上対象の調査結果【資料１】>

- ・ 調査対象は市内在住の16歳以上の市民3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
- ・ 有効回収数は1,290件で、回収率は43%。
- ・ 回答者は、40代～70代が多い結果となった。
- 問１ この１年間の運動・スポーツの頻度
 - ・ スポーツ推進計画の指標としている「成人の週１回以上の運動・スポーツ実施率（目標値68%）」は56.7%で、前回（平成25年度：50.7%）より6ポイント上昇した。
 - ・ 特に実施率が低い年代は、女性が20代～40代、男性が30代。
 - ・ 運動・スポーツを全くしない人が多い年代は、女性が20代～50代、男性が20代、40代、50代。→「働き盛り世代」と「子育て世代」
 - ・ 全体的に、女性の運動・スポーツ実施率が低い傾向。
- 問1-1 よく行う運動・スポーツ
 - ・ 上位順に、「ウォーキング」、「日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」、「筋力トレーニング」。
 - ・ 「日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」は、生活の中で意識的に行う身体活動も「運動・スポーツ」として捉えてもらうよう、今回の調査から選択肢を加えたもの。これによる影響を調べるため、この項目のみ選択した人数を除いた「週１回以上の運動・スポーツ実施率」を算出したところ56.7%→53.4%であった。3.3ポイント下がるが、前回調査結果より上昇しているため、影響は少ないと考える。
 - ・ 回答上位を見てわかるとおり、競技スポーツではなく、気軽に一人でも始められる運動がよく行われている。また、「問1-4 これからやってみたい運動・スポーツ」の結果と同傾向である。
- 問1-3 運動・スポーツを行う時間帯
 - ・ 性年代別のクロス集計を見ると、60代～70代は平日の早朝や午前中に、20代～40代は平日夜間や休日に運動・スポーツをしている人が多い。
 - ・ 女性は平日に、男性は休日に運動・スポーツをする傾向が見られる。
- 問1-4 運動・スポーツを行う理由・目的
 - ・ 「健康のため」、「体力・筋力の維持増進のため」が上位。
 - ・ 性年代別クロス集計を見ると、若い世代は「身体を動かすことが好き」、「好きな種目だから」が多いが、年代が上がるにつれて健康を意識する割合が増える。
 - ・ 20代～30代の女性は、「美容のため」、「ストレス解消」、「健康のため」が上位。
- 問1-5 運動・スポーツを行わない理由
 - ・ 「時間がないから」、「面倒くさいから」が上位。
 - ・ 性年代別クロス集計を見ると、女性は男性に比べて運動・スポーツに対する苦手意識が高いことがわかる。また、20代～30代女性は、「運動・スポーツをしたいが何から始めたら

いいのかわからない（機会がない）」と回答した人が多い。

- 問3 参加したいと思うスポーツイベント
 - ・ 「気軽に参加できるイベント」「スポーツと他のレクリエーション要素を組み合わせたイベント」「初心者や運動が苦手な人のためのイベント」が好まれている。
- 問4 これからやってみたいと思う運動・スポーツ
 - ・ 問1-1と同傾向。「ウォーキング」、「日常生活の中で意識的に身体を動かすこと」など、気軽に一人でも始められる運動・スポーツが上位である。
- 問6、7 この1年間に競技会場で直接観戦した種目、テレビで観戦した種目
 - ・ 前回調査と同傾向だが、「観戦したことがない」の割合が多い。「観るスポーツ」は、スポーツを好きになる大事な要素なため、観るためのアプローチをしていく必要がある。
- 問8 静岡市をホームタウンとするスポーツチームの応援状況
 - ・ 清水エスパルスを「応援している」と回答した割合は、居住区ごとのクロス集計では、清水区の方が6割を超えていた。エスパルス以外のホームタウンチームの認知度は低い。
- 問15 スポーツに関する情報の入手媒体
 - ・ 「市の広報紙」がトップであり、情報収集ツールとして活用されていることがわかる。SNSと回答した割合が少ないが、これは回答者に若い世代が少ないことによる影響と考えられる。

<小中学生対象の調査結果【資料2】>

- ・ 調査対象は市内小中学生1,831人（地域性から学校を抽出）
- ・ 有効回収数は1,747件で、回収率は95%。
- 問1 この1年間の運動・スポーツの頻度
 - ・ スポーツ推進計画の指標としている「週1回以上の運動・スポーツ実施率（目標値83%）」は91.6%で、前回（平成25年度：81.2%）より10.4ポイント上昇した。
 - ・ 同じく、「週3回以上の運動・スポーツ実施率（目標値50%）」は70.2%で、前回（50.1%）より20.1ポイント上昇した。いずれの指標も目標を達成している。
- 問1-1 よく行う運動・スポーツ
 - ・ 上位順に、「身体を使った外遊び」「自転車・サイクリング」「身体を使った室内遊び」。
 - ・ 「身体を使った外遊び・室内遊び」は、今回の調査から選択肢を加えたもの。これによる影響を調べるため、この項目のみ選択した人数を除いた運動・スポーツ実施率を算出したところ、週1回以上が91.6%→88%、週3回以上が70.1%→68.1%であり、大人と同様に影響は少ないと考える。
 - ・ 競技スポーツの種目は、前回調査結果と同傾向であった。
- 問1-4 運動・スポーツを行う理由・目的
 - ・ 上位順に、「うまくなりたい」「身体を動かすことが好き」「好きな種目」。子どもは大人と違い、単純に「うまくなりたい」「好き」が上位であった。
 - ・ 学校期別クロス集計では、小学校期は1位が「身体を動かすことが好き」。小さな頃から身体を動かすことが好きと思うことが、その後の運動・スポーツの実施につながるのでは

ないか。

- 問1-5 運動・スポーツを行わない理由
 - ・ 上位順に、「時間がない」「面倒くさい」「苦手」。学校期別のクロス集計では、小学校期が「苦手」「面倒くさい」「何から始めたらいいのかわからない」「興味がない」が、同数で1位。中学校期は、上位順に「時間がない」「面倒くさい」「苦手」である。小学生は苦手意識、中学生は時間の無さが影響している。
- 問3 運動・スポーツをすることが好きか
 - ・ 「好き」「どちらかというが好き」合わせて74.4%。8割近くが「好き」と感じている。運動・スポーツが好きか嫌いかは「スポーツをする理由」に直結するため、重要な要素。
- 問5 参加したいと思うスポーツイベント・教室
 - ・ 上位順に、「プロスポーツ選手から指導を受けられるイベント」「苦手な運動を教えてくれる教室」「やったことがないスポーツが体験できるイベント」。
- 問6 学校の運動部活動への参加有無、問6-1 運動部活動に参加しない理由
 - ・ 「参加している」割合は66.4%。参加しない理由の中に「苦手」があるため、苦手意識の払拭が必要と考える。
- 問7 この1年間に競技会場で直接観戦した種目、テレビで観戦した種目
 - ・ 「観戦したことがない」の割合が多い。子どもの頃からスポーツに興味を持つには大事な要素であるため、観るきっかけづくりを行いたい。

以上、全体を通して年代・性別による傾向が出ていた。特に大人は運動・スポーツ実施率の全体的な底上げと、子育て世代、働き盛り世代、無関心層へのケアが必要である。

<委員からの質問>

池谷委員

回答数と割合の集計で、割合の合計が100%になっていないところがあるのはなぜか。

室井主任主事

複数回答になっている設問は、合計しても100%にならない。

村田委員

16歳以上の調査では、高校や大学の時のスポーツ歴のようなものは聞いているのか。

室井主任主事

スポーツ歴については聞いていない。

大橋委員

小中学生について、運動・スポーツ実施率が上がった理由は何かあるか。

室井主任主事

このアンケートの中でそれが特定できる設問はないが、「運動・スポーツが好き」と回答している人が多く、かつ、運動・スポーツをする理由も「好き」という回答が上位であることを考えると、子どものころから「身体を動かすことが好き」なことが、実施率向上につながる要素になっているのではないかと。

村越会長

今のところは大事な部分だと思うが、実感として鳴海委員いかがか。

鳴海委員

授業をやっていて、体育の授業のやり方が昔と変わってきている。学習指導要領も新しく変わるのだが、苦手な子たちへのアプローチと、得意な子たちへのものと、二極化の問題を解消しようという方針になってきている。体育の授業も、「苦手な子もできるように」や「楽しく」という工夫が見られているので、その影響もあるのかと思う。

村越会長

中学生の感覚では設楽委員いかがか。

設楽委員

正式なデータはわからないが、例えば運動部活動への加入率で言えば、大きくは下がっていない。外部でのクラブチームやスポーツができる機会の方に行っている子どもたちもいるので、全体を通すと、学校の部活以外でもスポーツをする機会が増えているのかなと感じている。

議事（２） 静岡市スポーツ推進計画中間見直しの構成（案）について【資料３、４】

室井主任主事

○静岡市スポーツ推進計画（中間見直し）全体の構成案【資料３】

- ・ 中間見直しにあたり改訂版を作っていくが、その全体の構成案について説明する。
- ・ 第１章の赤字部分（見直しの趣旨、計画実現に向けた推進体制など）が計画の見直しに伴い新たに追加する部分。
- ・ 「２ スポーツの意義と定義」では、スポーツの価値について具現化している。また、当計画におけるスポーツとは、競技スポーツから健康維持のための軽い運動、生活で意識的に行う身体活動までを含めた様々な身体活動と定義している。これは、生活の中で意識的に行っている散歩や通勤時の自転車などの身体活動も、身体を動かすことを意識して継続すれば、カロリー消費ではスポーツと同等の効果があるため、生活の様々な場面でスポーツと関連して捉えることで、スポーツは生活に身近なものであるという市民の意識改革を図る目的がある。

- ・ (3) スポーツ・イン・ライフの実践は、国でも大きく打ち出している。市の5大構想においても「健康長寿のまちの実現」を目指しており、この実現にはスポーツ・イン・ライフの実践は重要である。
- ・ 「3 計画実現に向けた連携・協働体制」について、市のパートナーとして市と共に公共サービスの提供を担う外郭団体は、今まで以上に市との連携が強く求められているため、外郭団体（静岡市体育協会・静岡市まちづくり公社）の役割について明記したもの。
- ・ 5ページ部分は、市民意識調査の結果、現状の課題、課題に対する施策、改訂にあたっての変更点など、計画後期に向けて、課題を踏まえた取り組み内容等を記載したいと考えている。この部分は市民意識調査の全体の結果が出たところで作成する。

○静岡市スポーツ推進計画中間見直し構成案【資料4】

- ・ 黄色部分「指標」と「強化する取り組み」が中間見直しに伴い追加する部分。
- ・ まず指標について。スポーツ推進計画では、「観る」「する」「支える」の好循環を促すことで市民一人1スポーツの実現につなげることをしているが、各施策の実効性をより高めていくために、6つの施策の柱ごとに指標を設定したいと考えている。現段階では指標の項目を立てているが、これは今後数値目標を設定する予定。
- ・ 「強化する取り組み」について、例えば「柱1スポーツツーリズムによるMICEの推進とスポーツ機会の創出」では、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた交流事業や、アーバンスポーツイベントとして、若者に人気のクライミングやローラースポーツなどを取り入れたイベント実施などを検討していく。
- ・ 中間見直しの中で主に力を入れて取り組む部分は、「するスポーツ」として「柱4ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」になる。無関心層や実施率が低い層へのターゲットを絞った取り組みの強化をしていく。
- ・ 「柱6スポーツ活動を推進するための支援」では、運動・スポーツに関する情報発信の強化として、歩きやすい通勤スタイルの紹介や影響力のある人（インフルエンサー）を活用した情報発信など、スポーツの普及・啓発に力を入れていく。

<スポーツ推進計画の構成イメージについて>

- ・ 現在のスポーツ推進計画は、冒頭に序章として前計画の検証部分がある。今回の中間見直し改訂版では、この序章部分が資料3の第1章の赤字部分に当たる。
- ・ 資料3に「第2章 スポーツ推進計画の基本的な考え方」とあるが、これが現計画でいう第1章～第3章となる。
- ・ 現計画16ページの構成表は、資料4で新たに追加するとした指標などをこの構成の中に入れ込む形になる。
- ・ 各具体的事業については、審議会も踏まえて新たな事業を追加したり、既存事業の目標値の見直し等で改善していくものである。これらを踏まえて、スポーツ推進計画改訂版の冊子を作成する。

この後のワークショップでは、中間見直しで強化する取り組みと市民意識調査の結果を踏まえて、具体的にどんな施策を実施していくべきかというところのご意見をいただきたい。

<委員からの質問・意見>

村越会長

見直し構成案について、4ページまでは比較的書き込まれており完成に近いと思われるが、5ページの「スポーツを取り巻く環境と課題や改訂にあたっての変更点」はこれから書き込まれるところだと思う。ここは、今日のワークショップで我々が出した課題や方向性が書き込まれる可能性があるという理解でよいか。

室井主任主事

その通りである。

<その他、意見等なし>

議事（3）主な取り組み事業について（ワークショップ）【資料5】

室井主任主事

- ・ ワークショップは3班に分かれ、35分間の協議をお願いする。発表時間は約5分。
- ・ 班長は、1班 村越委員、2班 遠藤委員、3班 片岡委員をお願いする。
- ・ 議題は「スポーツ推進計画後期4年間に取り組む具体的な施策」。ポイントは3つ。
- ・ 1つ目は運動・スポーツ実施率が特に低い世代に対する取り組みについて、2つ目は運動・スポーツ無関心層への働きかけについて、3つ目は新規事業や拡充事業について。
- ・

村越会長

今日1回ですべて意見を出すのは難しいと思うが、こんな感じのイベントがいいとか、方向性がいいとか、課題意識も含めて自由にお話をいただければと思う。

<3班に分かれてワークショップ（35分間）>

- 1班 【委員】○村越委員、鳴海委員、大橋委員、小林委員 ○：進行リーダー
【事務局】 望月、前澤、野末、室井
- 2班 【委員】○遠藤委員、設楽委員、池谷委員、内川委員、仁科委員
【事務局】 戸田、長澤、三矢
- 3班 【委員】○片岡委員、村田委員、杉山委員、山之上委員
【事務局】 池田、山野井、村松

<各班の発表>

○1班

発表者：鳴海委員

- ・ アンケート結果では、運動をやっていない人の中で、ゲームやコンサートなど別のことに興味があるという回答があったため、それらを活かし、違う視点からアプローチができないか。
- ・ 企業にアプローチをして、昼休みに運動やリフレッシュできるようなもの考えたらどうか。
- ・ 子育て世代については、託児が必要で費用がかかるので、費用のバックアップが必要。
- ・ メディアの影響はとても大きいのでうまく活用した方がいい。駅伝もそうだが、勝つことによって子どもたちが憧れを持ち、人気が出るとそこにお金が落ちて、企業も強くなるというサイクルができていくので、メディアに頑張ってもらうのも利点がある。
- ・ 特に、東京オリンピックがあるので、オリンピック前もそうだが、オリンピック後にも選手に教えてもらうクリニックを開催したり、選手たちの人生や背景を番組にしてもらうと興味を持つのではないか。
- ・ 学校では、放課後子ども教室で子どもたちが外で遊ぶようになっているので、ぜひ広めていきたい。授業の影響も大きいので、授業の中でも苦手層に手を打ったり、小さなうちから能力を身に着けさせるような手立てをとっていけば、さらに小学校、中学校と運動していくようになるのではないか。
- ・ 無関心層よりも苦手層の方が多い。苦手な人たちはスポーツに関心があるかもしれないので、初心者教室などを開くことによってアプローチをかけていくと良いのではないか。
- ・ YouTubeなどで動画をアップすることが流行っているので、周りに評判が良かった体操を投稿して、コンテストなどができたら面白い。
- ・ 健康マイレージのように、運動したことをポイント化し、ポイントを商品に変えられえうなどの特典があると、運動しない人たちも運動しやすいのではないか。他自治体ではタニタとタイアップしているところもあるようだ。

○2班

発表者：仁科委員

- ・ 計画にはスポーツツーリズムの部分があるが、観るスポーツの観点からアプローチするのはどうか。大谷翔平選手や大坂なおみ選手など、スター選手に憧れてスポーツを始めるケースが多い。
- ・ スター選手と触れ合える機会を増やせば、若年層のスポーツへの関心が増し、「すごいな、やってみたいな」→「するスポーツ」に通じるのではないか。また、色々な種目のスポーツを観に行くなど、選手（本物）に触れる機会を増やすといい。
- ・ 子育て世代の母親は運動から孤立してしまう。本当はやりたいのにやれない人がいるので、運動から孤立させない施策を考えるべき。
- ・ 若い年代に運動をしておかないと、歳を重ねた時に大変だという「危機感」を発信することも必要ではないか。
- ・ 静岡市では個々のスポーツをはじめ、レクリエーションや身体を動かすことの団体があり、それぞれ活動している。スポーツに関心を向けてもらう意味で情報の共有化が必要。スポー

ツの種類、イベント等、スポーツに関する情報発信ができるスポーツナビシステムのように、広報を工夫する必要がある。

○3班

発表者：片岡委員

- ・ 子育て世代は託児が必須であるが、専門家を配置すれば予算がかかる。通常のイベントに子どものための一画を作るのも良い。一例として、スポーツ推進委員のイベントではバルーンアートのコーナーを設け、子どもたちはそこで遊び、親はスポーツイベントに参加している。
- ・ 単発の事業だと成功するが、次につながらない。広報の仕方を工夫し、単独広報だったものを年間を見通した広報にしていけば、参加者も期待や見通しが立つだろう。
- ・ 市民がどこにいても耳に入るように、市長などが、「スポーツ、スポーツ」としつつこくアナウンスすることも良い。
- ・ 民間企業ではスポーツに対してどのくらいの意識を持っているのか。昔は企業の福利厚生が充実しており、大手企業では家族も含めた運動会などがあった。企業を巻き込み、会社の福利厚生にアプローチしていけば働き盛り世代を拾っていきけるのではないか。
- ・ そもそも本来目的を見失っている気がする。大きな目的は、「スポーツをすることによる健康で豊かな生活の実現」。「スポーツ実施率」だけが押し出されていないか。なぜスポーツが重要なのか、スポーツは健康増進につながるという部分の広報をもう少し力を入れてみてはどうか。
- ・ 全くしない人で、「時間がない」という人たちの時間の分析をしたい。どんな生活をしているから時間がないのか。意外と無自覚な人が多いだけで実はスポーツをしていたという結果になるかもしれない。
- ・ かつてスポーツは、上手い人、得意な人のためのものだった。未だこの感覚が払拭されていないように思うが、苦手な人のスポーツ感をもっと大切にすべき。「観る」「する」「支える」の三本の柱があるのに「する至上主義」が消えていない。
- ・ 今はスポーツをすることが主体になっているが、スポーツについて知る、語る機会があるといい。学校であれば体育や保健の授業で、スポーツ（オリンピックなど）について話するのも良い。することに重きを置きがちだが、「スポーツについて語る」という機会を取り入れていくことで、意識を上げていくこともできるのではないか。

<村越会長から総括>

村越会長

- ・ ワークショップで大事にしたいことは、ささやかなアイデア。全体で議論すると言にくいところが出てくるので、ヒントになるものがあつたのではないかと思う。
- ・ 子育て世代が運動から孤立してしまっているという点は、大きな施策の柱になるのではないか。それこそ、もっと大きなレベルで数十年単位の好循環が生まれる一つの押どころかなと思った。
- ・ スポーツ推進計画の大きな目的を見失っていないかという点は、決して見失っていることはないと思うが、自分もスポーツ関係者であるため、何のためのスポーツなのかを常々考えな

いといけないと感じた。

- ・ スポーツについて語る場というのはいいと思った。歳をとると身体を動かすことが億劫になるが、どうやったら関われるかと考えると、ボランティアもそうだが、スポーツについて語るというのも良い手段ではないか。日頃スポーツをしていない人も、「静岡市って変わったことやっているね」と、興味をもってもらえるかもしれない。
- ・ ぜひ意見をうまく吸い上げて、今後の中間見直しに活かしてもらいたい。

<その他、意見等なし>

村越会長

以上ですべての議事が終了するため、議長の職を終わらせていただく。

司会（池田主幹兼スポーツ振興係長）

<閉会>